

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

令和6年度 重点目標及び自己評価（小学部）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 命や体を大切に守り、健康に生活できる力を育成する ・ 向上心と自信をもち、物事に主体的に取り組む力を育成する ・ 豊かな人間関係を築き、心豊かに生活できる力を育成する
評価する領域・分野	「学校教育全般」「教育活動・学習指導」「進路指導」「生徒指導（教育相談）」「特別活動」「保健管理」「安全管理」「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「教育目標・学校管理」「保護者、地域との連携」「情報提供」「教育環境整備」
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が健康・安全に学校生活を送るために、教師間、家庭や保健室が密に連携をとり、情報を共有する。 ・ 児童の発達段階や興味・関心に応じ、主体的に楽しく学ぶための授業改善・教材研究を実施する。 ・ 身近な教師や友達との関わりの中で、挨拶をしたり自分の思いを伝えたり、自分の役割を果たしたりする。
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の様子や指導内容を保護者に分かりやすく伝えていることや、保護者の意見を反映した個別の教育支援計画を作成していることで、高評価を得ている。普段から、丁寧に児童生徒や保護者に接していることが結果に結びついたと考えられる。 ・ 相談しやすい雰囲気、進路に関する連絡や情報共有、卒業後を見通した支援については十分ではないと考えられる。適切な助言・提案ができるよう、職員が知識を得るとともに、その都度積極的に伝えていくことが必要である。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主任会や部会、学年会等で、児童や保護者の様子について共有したり、保護者の声に丁寧に対応し、必要に応じケース会議等を行ったりした。 ・ 児童の実態をもとに、学年の職員間で協力し合い、日頃の授業計画や準備等を行った。 ・ 部集会や委員会活動、各学級での係活動において、自分の役割を果たす機会を設けた。
成果・課題	総合評価
<p>○児童の健康面や行動面等の情報共有を行い、保護者とも連絡帳や電話等で連携することによって、適切な対応をとることができた。</p> <p>○学年の職員間で協力し合い、日頃の授業の計画や準備等を行い、児童の学びを支援することができた。</p> <p>○委員会活動や係の仕事において、自分の役割をやり遂げようとする姿を引き出すことができた。</p> <p>▲学年を超えての職員の連携体制</p> <p>▲着替えやトイレ等での同性介助や呼称等、人権意識の向上</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の共有や職員体制等、各学年を超えてお互いが気持ちよく協力できるような職員の連携体制を構築する。 ・ 職員間同士や保護者とのコミュニケーションを大切にして、普段から相談しやすい雰囲気づくりをする。 ・ 人権を意識した支援は、部内のことと捉えず、全校で取り組んでいけるとよい。（男性教員が増員されるのが理想）

令和6年度 重点目標及び自己評価（中学部）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・命や体を大切に守り、健康に生活できる力を育成する ・向上心と自信をもち、物事に主体的に取り組む力を育成する ・豊かな人間関係を築き、心豊かに生活できる力を育成する
評価する領域・分野	「学校教育全般」「教育活動・学習指導」「進路指導」「生徒指導（教育相談）」「保健管理」「安全管理」「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「教育目標・学校評価」「保護者、地域との連携」「情報提供」「教育環境整備」
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が健康で安全な生活を送るために教職員の連携・協力体制の向上図り、チームによる教育活動を推進する。 ・生徒の学ぶ意欲を高め、主体的に学ぶ授業づくりを行う。 ・学年段階等を踏まえた進路楽手の充実を図り、学習状況を発信する。
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子について懇談等で保護者との情報共有を積極的に行っているという点については、日頃から保護者との連絡を密に行ってきたため、評価が高かったと思われる。 ・生徒に愛情をもって接し、教育に熱心に取り組んでいるという点については評価が高かった。 ・教職員の雰囲気や連携、いじめの未然防止については分からないも含め評価が低かった。生徒の支援方法や接し方に、一部問題があったと思われる。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子について報告や相談を通して情報共有を行ったり、保護者にも日々連絡帳や電話連絡をしたりすることで、丁寧に対応した。 ・職員間でコミュニケーションをよく取ることで、生徒一人一人の実態把握や共通理解を図り、生徒の成長や自立につながる授業を工夫した。 ・係活動や作業学習、進路に関わる単元を設定し、働くことや社会のルール等について学ぶ体験的な授業を行った。
成果・課題	総合評価
<p>○保護者に対して日々の生徒の様子や体調についてきめ細かな連絡をとることで、保護者と連携して適切な指導を行うことができた。</p> <p>○ICTを活用した授業に積極的に取り組んだことで、生徒の学ぶ意欲を高め、主体的に取り組む授業を行うことができた。</p> <p>○中学生としての身だしなみや言葉遣い、決まりやルールを明確にして教員間で共通理解を図ることで、一貫した指導ができた。</p> <p>▲入学したての1年生や思春期特有の心や体の変化に応じた丁寧な指導</p> <p>▲中学生という年齢に応じた言葉遣いや態度等、人権感覚を意識した支援</p> <p>▲学年段階と生徒の実態を考慮した進路学習の充実</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間、学部内での風通しを良くするために、学年会や学部会だけでなく、日頃からコミュニケーションを大切にし、相談しやすい話しやすい雰囲気をつくる。 ・高等部卒業後を意識した進路学習の充実を図る。 ・生徒に対する言葉遣いや指導、支援について、常に人権感覚を意識して行うことを心掛ける。

令和6年度 重点目標及び自己評価（高等部）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・命や体を大切に守り、健康に生活できる力を育成する ・向上心と自信をもち、物事に主体的に取り組む力を育成する ・豊かな人間関係を築き、心豊かに生活できる力を育成する
評価する領域・分野	「学校教育全般」「教育活動・学習指導」「進路指導」「生徒指導（教育相談）」「特別活動」「保健管理」「安全管理」「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「教育目標・学校評価」「保護者、地域との連携」「情報提供」「教育環境整備」
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が卒業後の社会生活を考える機会を多くの場面で仕組み、生徒自らが生活態度の見直しができるように生徒会を中心に進める。 ・自立と社会参加に向けた生徒個人の課題を明確にし、作業学習を中心に授業改善を進めていく。 ・進路先決定までの過程を見直し、生徒が真に希望する進路決定ができるように組織として取り組む。
現状及びアンケートの結果分析等	<p>○高評価を得た内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の可能性を伸ばす指導・支援 ・教員の相談しやすい雰囲気や積極的な情報共有 ・卒業後を見通した個別の教育支援計画の活用 <p>○課題とすべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止や早期発見、医療機関との連携、教育活動等の発信
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自ら考え、生徒からの思いを尊重し具体的な活動へ導きながら、活動の成功体験ができるように進める。 ・学習面での全体指導時、要支援の生徒への支援体制（席の並びや生徒と支援者の配置換え等）を改善 ・生徒の進路実現に向けて、一律の指導だけではなく個々の生徒のめざすべき姿を共有、連携した指導ができた。
成果・課題	総合評価
<p>○生徒会役員が中心となって、生徒同士の「挨拶運動」や「お悩み相談会」「ぼかぼかな仲間見つけ」等の活動を主体的に進めたり、地区の高校生による交通安全推進大会では、積極的に発言し他校の生徒と交流したりするなど活発な取組ができた。</p> <p>○一斉指導や集団活動では、支援の必要な生徒に対して体制を改善・工夫して一人一人が理解を深められるように指導することができた。</p> <p>○生徒の抱える様々な課題に対して。教員間で密に情報教諭したりケース会議を開いたりして、課題解決に向けて進めることができた。</p> <p>○生徒一人一人の実態に合った進路実現に向けて、日々卒業後の生活を意識したシド・支援ができた。</p> <p>▲情報モラルに関するトラブルが数件起きたため、</p> <p>▲人権を意識した指導支援の見直しが必要である。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルに関するトラブルの未然防止のために実態に合った定期的な指導 ・内面的な弱さや自己中心的な生徒への将来を見据えた指導支援 ・生徒に対する教師の言動を見直し、日々クラス、学年の教師間で確認

学校関係者評価（令和7年2月18日実施）

- ・過去と比較し、保護者との連携が良くなっている点について改善が見られた。
- ・学校は環境や配置の工夫等日々努力している。教員が見抜く力は生徒にとって効果がある。
- ・保護者との連絡帳等でのやり取りはとても良い。
- ・小学部段階から基本的な生活習慣・身辺自立を進めていくことが社会自立につながるので進めてほしい。また、学年を超えた連携や協力、見守りは成功につながる。
- ・呼称等、人意識については、第三者からの目により気付きがある。校内の3学部間でお互いに指摘し合えるとよい。
- ・一人の人間として尊重して育てていく人権は大切なので大事にしてほしい。ただ、社会では本人の気持ちは優先され、自己中心性が目立つ様相も見られる。小さい時から自由に育てている結果が小・中・高に反映されている社会になっているので難しさもある。
- ・人権は難しいが学校で守っていくことは大事である。
- ・複数人で検討するケース会議は解決の方策としては非常に良いので続けてほしい。